

日時 : 2015年12月17日(木) 13:00 ~ 17:00
場所 : 塗料報知新聞社 会議室
出席者 : 分科会長: 窪井 要((有)久保井塗装工業所)
副分科会長: 内山貴織(東和酵素(株))、高橋大(株)三王)
幹事 : 平野克己(日本塗装機械工業会)、石井信行(大塚刷毛製造(株))、
稲田建(株)花菱塗装技研工業)、魚谷英未(株)アースクリーンテクノ)
塩森篤博(株)岡久)
相談役 : 福田良介(日本パウダーコーティング協同組合)
アドバイザー: 田村吉宣(株)アースクリーンテクノ)、片山真司(J&Sエンジニアリング(株))
坂井秀也(坂井技術士事務所)、藤井俊二(株)三菱化学テクノリサーチ)
奴間伸茂(高分子学会フェロー)
ゲスト : 須田威志(株)豊田自動織機)、高畑和幸((有)シーティータカハタ)、
望月徳三(東京ガスケミカル(株))、吉野和彦(株)明治機械製作所)、
高橋善之(大塚刷毛製造(株))、望月徳三(東京ガスケミカル(株))
白石公郎((株)サトー)、田辺直((有)田辺塗工所・愛車館タナベ(有))、
松原出(株)大気社)、早川和成(旭硝子(株))
河本謙一、小泉雄一(株)小泉塗装工業所)
平林康司((有)平林)、松澤真吾((有)北信ペイント販売)
葛西志耕(経済産業省関東経済産業局)
小川智江(東京都環境局環境改善部化学物質対策課)
新井俊広(埼玉県環境部大気環境課)
青木薫(コーティングメディア)
事務局: 有馬弘純、藤井謙二郎(塗料報知新聞社)

34名 敬称略

***** 議題 *****

1. 分科会長挨拶 (窪井)

今年も年の初めからセミナーや啓発活動など色々なかたちで活動をしてきました。特に北海道セミナーは、工業塗装があまりない地域で開催されたこともあり、「気にしないといけない」様々な事柄に気づかされ、我々がまだ行っていない地域でもセミナーなどをしなければならぬと感じました。今までは個人の手腕に頼ってきましたが、これからは IPCO としてどのように対応するのかを考えるべき時期だと感じております。

2. 初参加者挨拶

小泉雄一(株)小泉塗装工業所)、松原出(株)大気社)、
松澤真吾((有)北信ペイント販売)、平林康司((有)平林)

3. 議題

3-1 セミナー結果報告

① 1. CEMA シンポジウム、中国の件(平野)

毎年開催の CEMA シンポジウム。10月23日(金)に東京、大阪(中継)で開催。

IPCO コーナーも設けられて、次の講演が行われた。基調講演「サポイン取得とその成果」窪井要・
吉野和彦 ①「レーザーを利用した塗膜剥離技術」上野邦香 ②「ラベルを活用した生産工程の

管理」白石公郎 ③「新しい模様塗料」高橋大

今後も、CEMA シンポジウムでの発表を続けたいと思うので、この IPCO 環境技術分科会のなかで積極的に討論をすることが必要だと考える。

2. 10 月末に中国・北京にて日本・中国・韓国 VOC 環境会議のセミナーにて講演。中国の大気汚染問題は深刻で、2016 年 1 月には大気汚染防止法が改正され、例えば溶剤塗料の使用には4%の課税がされるという厳しい法律。しかし、中国当局の担当者も知識不足につき、今後、日本との情報交換が必要。現在、中国環境保護局のメンバーが日本の各所を視察中。JICA の要請により昨日は三王の工場見学。塗装 VOC について1時間講演をした。質問が多く関心の高さが窺えた。

② コナフェス結果報告(高橋大)

IPCO 関係では窪井、田村、内山 3 名による講演。特に田村講演では 70 名もの参加者。60μ ちょうどを狙う膜厚コンテストなども開催。来場者 400 名 9 講演の参加者 300 名。

③ 鯖江セミナー報告(魚谷)

11月21日(土)に福井県鯖江市で「日本の工業塗装の未来を考える」をテーマで開催。参加者は漆塗装を中心に7名参加。漆塗装の方が多かった。

アンケート結果でのご意見:「こういったセミナーは初めてなので、次回もお願いしたい」「異業種(工業塗装)の話は興味深い」「ゴミブツ削減の話が勉強になった。数値化まで行っていなかったのが今後の指針となった」「時期が閑散期ならば良かった」「ゴミブツ対策、もう少しあってもよかった」

また、漆を塗る山車は複雑な形状であったため、新静電塗装の話なども人気があった。

④ 安全分科会(田村)

これから着手すべきテーマとしては、2016 年 6 月 1 日から施行される「化学物質に関するリスクアセスメント実施義務化」という労働安全衛生法の改正への対応。相次ぐ労働災害を背景に法規対応では労働者の安全を守れないという危機感にもとづき、法規で決められていないものでも、SDS を基に化学物質の危険性を各事業者が自ら調査して、できるだけ対策を講じるというのが、リスクアセスメントの指針となっている。

来年からの分科会方針:すでに平野、坂井、藤井、木下の識者にご意見を伺っている。

「塗装健康被害リスクアセスメント」は工塗連を中心に作成を開始。

「火災爆発リスクアセスメント」については、汎用的・一般的な話となっている。今のシートのままでは、塗装に絞ったツールは作れないと思うので、今から安全分科会で準備した方がよいと思う。(藤井)

火災爆発のリスクアセスメントのやり方について(田村)

自動車塗装は、かなり徹底している。コストダウンの視点から火災防止に視点を変えると、意識が変わって、加速度的に良くなる。ステン板を貼る、静電物に関する教育を始めることから着手する。

また、防災関連製品の販売・紹介など、VOC 以上にやることが出てくる。

あわせて、消火については、初期消火をどこで見切りをつけて負傷者の発生を防ぐべきかといったことも普及させるのが大事。

3 月の塗料工業会セミナー・震災時の BCP について(奴間)

3/23 東京 3/25 大阪で開催。個別に対応は難しいので業界としてできないか、模索中。

業界のリスクアセスメント推進が目的。

また、首都高での火災事故を受けて、日塗工に問い合わせあり、ポケットサイズのマニュアルを作成している。

一番対策が遅れている地震時の火災発生について、大地震の際に、塗料工場の倉庫はどうなるのかも考えた方が良い。日塗工では、BCP(事業継続計画)マニュアルの作成時に研究しており、倉庫で塗料が多数落下した事例などを取り上げている。

設備設計の立場から(松原)

設備設計の立場からも、防災についての要望を教えて欲しい。特化則に抵触する脱臭装置とかあるので、アナウンスして欲しい。塗る現場だけでなく、設備も含めて考えないといけないと思う。

⑤ 来年の IPCO セミナー ※()内は主催者

6月:北海道セミナー(パウダー協)

7月:日本海セミナー(岡久)

10月:CEMA シンポジウム(CEMA)

開催時期検討中:九州セミナー(九州工塗協)、瀬戸内セミナー

この他に、大阪セミナー(パウダー協、関西工業塗装協同組合)、名古屋セミナーも検討する。

※今後のセミナーの進め方について(内山)

すでに実行した講演については、資料を整備して、次のセミナーには代理でもできるようにしておくべき。実行委員会のなかで検討。また、各経済産業局など行政については、最寄りの担当者が講演できるようにしてもよい。

⑥ ASTEC(平野)

理工出版による塗料・塗装ワールド内に出展する。塗料・塗装ワールドブースは8小間とコーヒーカウンターで構成。IPCO は2ブースを使ってパネル展示と製品展示(有料 各社提供)を行う。

3-3 プレゼンテーション

① サトー デジタルマーク(白石) ※前回の続き

小泉塗装工業と連携して、オート ID での自動認識技術を、塗装工場の合理化において、どのように活用できるのかを検証。電着槽に13回漬けてラインに流しても読み取り可能。

これにより、ハンガーごとの管理を主眼としたICチップならびに特殊ラベルRFIDチップは使用可能と判明した。「効率と正確性のどう求めるか」がテーマ。

1

② 泡塗装ブース(田辺)

現在、産学連携で大学でも検証中。どうしても泡がミストの直撃で破壊され、遮蔽板が大変汚れるのが課題。解決策としては、遮蔽板の泡出口の改造もしくは遮蔽板の使い捨てを考えている。

⇒新解決策:水を流して、その上から泡を流せば不粘着化できる。もしくは清掃を頻繁に(一日一度の頻度くらい)行えば、塗料の付着を防げる。

③豊田自動織機 IPCOと共有したい工業塗装分野の課題解決(須田)※前回の続き

A. 品質・化成皮膜

B. 環境・ゼロエミッション化

C. 安全・火災リスク低減改善

※次回分科会開催予定

第15回環境技術分科会 2016年2月18日(木) 13時 ~ 17時 塗料報知新聞社 会議室

————— 以 上 —————